

# CO・OP

京都の生協

2016/April/No. 89  
京都府生活協同組合連合会



京商人の住まいと食から学ぶ「ていねいな暮らし」  
——杉本家住宅が、現代に生きるわたしたちに伝えるもの——

## TalkTalk トークとーく

公益財団法人 奈良屋記念杉本家保存会 すぎもと せつこ 杉本節子さん  
常務理事兼事務局長／料理研究家 杉本 上 掛 利 博  
京都府生活協同組合連合会 会長理事

# 対談

## TalkTalk トークとーく

「京商人の住まいと食から学ぶ  
「ていねいな暮らし」

——杉本家住宅が、現代に生きるわたしたちに伝えるもの——

公益財団法人 奈良屋記念杉本家保存会 常務理事兼事務局長 / 料理研究家

京都府生活協同組合連合会 会長理事

(京都府立大学公共政策学部教授)

杉本節子  
上掛利博

四条烏丸のオフィス街に近い杉本家住宅は、間口30メートルという、京都市内でも最大規模の町家で、国の重要文化財の指定を受けています。しかしながら、杉本さんが話す「杉本家の暮らし」は質素そのもので、思わず「謙虚」という言葉が浮かんできました。あふれんばかりの物に囲まれた現代のわたしたちの「暮らしの質」を考えるうえで、この家から学ぶことが大いにありそうです。

### 「奈良屋」は「京ブランド商法」の店 ——杉本家住宅のはじまり

**上掛** このお宅には、以前にノルウェー大使館の方を案内したことがあります。また、祇園祭の屏風祭で「伯牙山」の懸装品が飾られていたのも拝見しました。

**杉本** そうでしたか。いらしてくださいって、ありがとうございます。祇園祭は、それぞれの町内の共同体を象徴するもので、この家のある矢田町は「伯牙山」を出す山町で

すから、とくに強い共同体意識があります。マンションが増えて、新しく入町した人たち全員に祭への参加を義務づけるのは難しいこともありま

すが、祭を中心に人びとが結束して動いていく姿はこの界限の特徴でもあると思いますし、共同体としてのつながりの強さは祭があつてこそではないかと思えます。

**上掛** 杉本家は、もともと

呉服店だったとうかがいました。始めにその歴史を教えてください。

**杉本** 初代は、江戸時代の宝永元（1704）年に三重県の伊勢地方の農家に生まれて、13歳のときに、京都で手広く商売をしていた「奈良屋」という呉服店に丁稚奉公に出ました。そのお店で25年間を勤めあげた後、のれん分けを許されて、寛保3（17

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

京商人の住まいと食から学ぶ「ていねいな暮らし」	2
きょうと食の安心・安全フォーラム	7
平成27年度食の安心・安全意見交換会	7
京都発！ 食とみどりのサイエンスNow	7
農林水産省近畿農政局と 近畿地区生協府県連協議会との意見交換会開催	7
2016年京都府生協連 新春交歓会開催	8
会員生協 トップインタビュー vol.2	
立命館生活協同組合	10

TOPICS

●京都府生協連 環境・エネルギー部会、 ならコープを訪問	12
●COP21（国連気候変動枠組条約・ 第21回締約国会議）・パリ会議報告会 開催	12
●京都府生協連 地域支援事業推進チームが あすなろ苑を訪問	12
●近畿ブロック地方消費者グループフォーラム in和歌山	12
●京都環境フェスティバル2015	13

●京都府災害ボランティアセンター 設立10周年記念事業を開催	13
●第3回近畿圏 府県生協連・ろうきん合同会議 開催	13
●相互連絡防災通信訓練を実施	13
●クライメイトアクション・アースパレード	13
京都府生協連 第18回 「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」	14
おもな行事のお知らせ	14



公益財団法人 奈良屋記念杉本家保存会  
常務理事兼事務局長／料理研究家

杉本節子さん

43)年に呉服商の「奈良屋」を創業したのが始まりです。ちなみに、のれん分けのことを、当時は「宿場入り」と呼んでいました。

最初は烏丸四条上ルの小さな間口の借家で商売を始めて、24年後にこの矢田町に移転し、住まいと店舗を構えます。それ以来、10代目の私まで代を重ねてきました。

この奈良屋は、もともと京

呉服を扱う商人です。他国に

物売りさばく店を持つ「他国店持京商人」という形態で、主に関東地方で商売を広げました。地方で京物を売るのですから、いわゆる「京ブランド商法」とでも申しましょうか。三井家や大丸、高島屋など、いまでも残っている大きなお家はすべからく「他国店持」という商売形態だったようです。

奈良屋が最初に出店した佐原<sup>はら</sup>は、利根川流域に位置し、

水運が発達していて、伊勢地方の山田と並ぶ地方都市の経済の拠点でした。また、佐原にも八坂神社があり、祇園祭がおこなわれていることも、店を出す地を選んで大きな要因だったと思います。その後、現在の佐倉市や千葉市で呉服店や百貨店を営むようになりました。

※佐原市は千葉県北東部に存在した市。2006年3月27日に香取郡栗源町、小見川町、山田町と合併し、香取市となった。

## 熱意によって守りつれた杉本家住宅 ——財団法人の設立

**上掛** 杉本さんのお父さまは、フランス文学者として京都女子大学や国際日本文化研究センターで教育・研究に携わられた杉本秀太郎さんですが、この家の保存のため財団法人を立ち上げようと考えられたのは、秀太郎さんですか。

**杉本** 父や私は、何らかの事情でこの家が壊されて、住めなくなったとしても、それは杉本家の歴史のひとつであり、住む力がなくなれば身の丈に合ったところに移り住むのは人としてこの世に生きるならいであると感じるところもあったのですが、母はこ

の家を存続させたいという熱い思いを持っていました。この母の支えなくしては、父も9代目当主として、呉服商から財団法人の運営へと家業換えをするという大事はなしえなかつたと思います。

**上掛** 秀太郎さんは、研究者の道を歩まれて、家業は継がれなかつたわけですね。

**杉本** はい、そのため、祖父が亡くなったときにこの家をどうするかという問題が出てまいりました。と申しますのは、千葉の「奈良屋」は、私の曾祖父の代に株式会社化されて、この家も会社の資産

になっておりました。父は学者としてそれなりに業績を積み、社会的にも認知されておりましたし、子どもは私たち三姉妹だけでしたから、奈良屋を継ぐ直系の者はありません。会社としては自己資産であるこの家を取り壊して再開発したいという意向でしたが、梅原猛先生をはじめ、有識者や経済界の方がたなど、父を支援してくださるみなさんが「この建物は文化財的価値がある。財団法人化してはどうか」と、後押しをしてくださったのです。

それでも、会社の資産である土地・建物を財団法人に寄付してもらう手続きにはかなりの時間とエネルギーが必要



京都府生活協同組合連合会 会長理事  
(京都府立大学 公共政策学部教授)

上掛利博



で、当時20代半ばだった私も落ち着かない時期を過ごしました。京都府から法人設立の認可をいただくことができずしたのは、祖父が亡くなって4年たったときでした。

## 「歳中覚」にみる江戸時代の杉本家の暮らし

**上掛** そのようなご苦労があつて、この家が残ったわけですね。そのおかげで、われわれは京町家の暮らし方に関心を持ち、学ぶことができず。杉本家には、年中行事やしきたりを記した「歳中覚」という帳面が残されていると聞きました。

**杉本** 「歳中覚」は、「寛政の改革」がおこなわれていた寛政2（1790）年に書き始められています。途中に何度も書き改めをしてきたことが記帳されていますが、その最後が、天保12（1841）年で、現在、手元にのこされているものです。京都のまち火で大きな被害を受けましたので、寛政年間というのは、改革の推進とともに、焼け野原から復興していく時期でもありましたし、最後の書き改めがある天保12年も「天保の改革」が始まったその年でした。

る21日は、茶めしに、小さな賽の目切りの豆腐が入った汁で、これも夏の間は豆腐の汁物の代わりにナスのどんがめ煮を用いることが書かれています。ナスのどんがめ煮は、格子状に切り込みを入れたナスを赤味噌仕立ての汁の具にしたもので、ナスを泥の中にあるカメに見立てた料理です。京都の「おきまり」の料理として、際の日、つまり晦日

にはおからを、8のつく日には芽が出るようにあらめを、1日と15日には小豆のごはんやおぜんざいを食べる、ということがよく言われますが、この家にはそのならわしはないのです。

## 季節とともに暮らし、時代に 応じて変化をいとわず生きる

**上掛** 「歳中覚」には、ほかにどのようなことが書かれていますか。

**杉本** お正月や五節句の行事だけでなく、火鉢を出す日やしましるいこと、3月3日の「上巳の節句」の前日の2日には土蔵の窓を開けること、10月の終りには火鉢を出して冬の準備をすると同時に、土蔵の窓を閉めることが書かれていますね。つまり、それだけ防火を重視し、蔵の窓を開閉するというおこじじめをつけていたのです。

支配をしておりましたから、寺と民衆の関係性は、わたしたち現代人が思う以上に従属関係にあり、信仰が暮らしの中心に濃厚に息づいていたのだらうと思います。

当然ながら、町家のそれぞれの習慣や家風は、その商売の業種や形態や規模、それに加えて信仰する宗派によって大きく異なっていると思えます。

食においても、ふだんの朝夕は茶漬けと香の物、昼は汁一菜で、毎月10日と20日と晦日だけはお魚を、主人も雇われ人も年功序列も関係なくいただきました。そして、9月10日から3月2日までの寒い時期の朝ごはんは、お茶漬けではなく茶がゆにすると書かれています。

つまり、3月2日までは食も住まいも冬仕様で、3月3日の「上巳の節句」を前に、蔵の窓を開け放ち、雛人形を出してくることで一気に春の暮らしになるわけです。私の子どものころには、もう蔵の

窓の明け閉めはしておりませんでした。食のならわしと考え合わせますと、蔵を中心にした暮らしのつむぎ方、いわば歳時記のようなものが見えてくる気がいたしますね。

ほかには、先祖代々の法事の献立、梅干し漬、漬物を漬けることなど保存食の仕事も書かれ、5月の創業記念日





の献立は上書きが24枚も貼られていきます。それを見ておられますと、時代の流れや当主の交代、住まう人などに柔軟に合わせて暮らしを変化させてきた履歴がよくわかります。

ですから、祖父も祖母も「歳中覚」にあるとおりにしなければいけない」とは申しませんでした。逆に「時代に応じた暮らし方をしていけばいい」と教えてくれているよ

うにも思います。さらに、いまは財団法人の資産になりましたので、財団の事業にふさわしいかたちで人形飾りをしたり、行事の日取りを設定するようにしています。

## 「おばんざい」は、京の人びとの心身を養ってきた「ふだんのおかず」

**上掛** 私の勤務する京都府立大学は、新たに和食文化に関する高等教育機関の開設をめざし、研究センターを設置しており、杉本さんには客員教授に就任いただいています。  
**杉本** 昨年暮れに、同センターの講義でお話ししましたときは、男子学生のみなさん

も熱心に受講してください、ふだん女性や食物栄養専攻の学生さんを前にすることが多い私にとりましては、とても新鮮な体験でした。新しい学科でも学生さんたちとの出会いを、とても楽しみにしております（笑）。

**上掛** 講義では、「おばんざい」について話していただくこともありますか？

**杉本** 「おばんざい」は、京都の家庭のふだんのおかず、さもない料理を指す言葉ですが、随筆家や料理研究家として活躍なさった大村しげさんが新聞の連載エッセーのなかで使われたのが始まりで、実は、この界限では使っておりませんでしたが、祖母も「昔は『おばんざい』という言葉は使ってへんかったんや」と申しております。

たぶん高度成長期に京都に関する情報が全国で求められるようになり、大村さんが発信された「おばんざい」が各地で受け入れられて、京都に逆輸入されたといえるのでしょう。私も、もともと馴染みのない言葉でしたから、最初は抵抗がありました。京都のふだんのおかずをひとことと表現する言葉としてはとてもわかりやすいので、いまは使っております。

**上掛** たしか、もうひとつ別の呼び名がありましたよね。  
**杉本** 「お雑用」です。地元では「おばんざい」よりも「お雑用」のほうが使われていたと思いますが、うちではふつうに「おかず」と言っております。

**上掛** 料理研究家として「おばんざい」を定義すると、

どのようになりますか？

**杉本** ひとことで表現すれば、「おいしいなりすぎんぐええ料理」ですね。お料理は、まずいよりはおいしいほうがいいに決まっていますが、お料理教室の生徒さんには「余分な食材は使わず、ミニマムに仕立てる料理がおばんざいですよ」と説明しています。

このように定義する最大の根拠は、「歳中覚」に書き記

## 「おばんざい」の精神を象徴する「お漬物」

**上掛** 「おばんざい」は、京都の地元の食材との関係が深いと考えられますが…

**杉本** そう思います。「三里四方のものを食べていけば病知らず」という言い伝えがありますように、自分が毎日飲んでいる水と同じ水質で育った野菜が、からだにいちばんなじむのでしょう。京都は、かつては都でしたし、近郊は昔から京野菜の栽培が盛んで、農家のみなさんはハイレベルの栽培技術を有しておられて、需要も多うございまして。そうした土地に根ざした豊かな食材が、おいしい

「おばんざい」を生み出すことにつながったと思います。  
**上掛** 代表的な「おばんざい」を挙げるとすれば、何になりますでしょうか？  
**杉本** なかなか難しい質問ですが、私は「香の物」、つまりお漬物ではないかと思えます。と申しますのは、「歳中覚」にもあるように、昔は朝夕にお茶漬けと香の物を食べておりましたので、お漬物は欠かせず、この家にも「旧漬物小屋」が残っています。お漬物は、年がら年中食べますので、うちぐらいた大規模な商家になりますと、自分

された、朝夕はお茶漬けと香の物、お昼は一汁一菜、お魚は月に3度だけという食のなわしにありませぬ。最低限必要な食べものを大切にいただくことは、人として分相応の生き方と申しますか、とても大事なものであり、「おばんざい」を通じてそうした京商人の精神を発信するのが私の自己表現のひとつでもあると思っております。



## 人として分をわきまえた 生き方を

**上掛** では、今日的な「おばんざい」といえば何になるでしょう。

**杉本** 「ふだんのおかず」ととらえるならば、和食に限る必要はありませんで、先ほどお話しした「おこうこ」にしても、塩気を抜いてから、ごま油と鷹の爪でちよつと炒めると、中華風のザーサイ炒めのような料理になりますし、「おからの焚いたん」をコロッケにするのも「おばんざい」だといえましょう。

そう考えますと、もとの料理を今風に展開させたのが「現代のおばんざい」としてとらえられるのではないのかなとも思います。

**上掛** なるほど。杉本さんは、京都生協の組合員さんと

とここで大量に漬け込み、それを自分とこの漬物小屋で貯蔵していたのです。お大根を秋の終りから冬の初めに漬けますと、だいたいお正月の7日ころには「新こうこ」が漬けあがりまます。それをおいしくいただいた後は、

うかがいましたが、生協の食材についてのご感想は？

**杉本** 生産者の方も、消費者の目線に立って、安全・安心な食材の提供を心がけておられることがよくわかります。おばんざいはある程度の保存がきくことが大事ですから、私の小さいころは、お豆さんの焚いたのでも、おからの焚いたのでも、大きなお鍋でつくって、火入れて日持ちをさせながら何日も食べつないでいきました。でも、いまはとにかく「賞味期限」で判断して、それを過ぎればすぐに捨てるといった風潮が強いな気がします。

私たち消費者は業者さんから提供される情報に依存するところが大きいので、販売者

だんだん古漬けになりますので、刻んで塩気と香りを抜いて、そのまま漬物として食べたり、「おこうこの焚いたん」というお料理にしたりしました。これは、薄切りにして塩気と香りを抜いた「おこうこ」に、おじゃこと鷹の爪

の方には正確な情報を提供していただいて、消費者は最後までむだなく食べるようにしたいものです。その点、生協は食品の提供の仕方をよく考えておられるという信頼がありますね。

**上掛** 杉本秀太郎さんは、ご著書のなかで「教養」ということの大切さを述べておられます。生活協同組合も、「生活の質」を高めるために「学ぶ」ということを重視しています。

**杉本** なかなか耳の痛いお話ですね(笑)。ただ、たとえばこの座敷の掛け軸の画風や画家や描かれた時代背景などを理解していると、より深くこの客間の空間を味わうことができるだろうとは思っています。

それと、父が申しました「教養」というのは、自国の歴史や文化をきちんと見つめ

を入れて、おしよゆで少し焚き直したものです。香の物を、自分とここで漬けて、それを大事に最後まで食べきるのは、京都の「おばんざい」の精神をあらわす象徴的なお料理ではないかと思えます。

直すことではないでしょうか。町家はそれを伝える有形の文化財、そこに息づく暮らしは無形の文化財で、この家全体が「人としての分をわきまえて生きる」ということを教えてくれています。

先ほど申しましたように、人も自然界の一部であり、四季に合わせた暮らし方がいちばん身の丈に合っているのですから、原発の問題のように、天に唾すれば必ず自分に降りかかってくるということをきちんと心にとめておいて、もっと慎み深く生きるべきではないかと思えます。

**上掛** お話をうかがって、季節に合わせた「ていねいな暮らし」というのは、人としての生き方に通じていることを教えられたように思います。ありがとうございます。

(写真撮影・有田知行)

### プロフィール 杉本 節子(すぎもと せつこ)

京都市生まれ。公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会常務理事兼事務局長、料理研究家、エッセイスト。生家は重要文化財「杉本家住宅」・名勝「杉本氏庭園」。和食文化に詳しく京町家杉本家と京都の年中行事・歳時記に関する歴史・食文化と伝統食を継承。食育活動、テレビ出演、著作執筆、食文化展示監修、国内外での講演、料理講師、大学非常勤・客員教授、企業・店舗メニュー開発、監修など幅広く活躍。京都府認定「きょうと食いく先生」。京都市「京都をつなぐ無形文化遺産「京の食文化」」アドバイザー。京都府・京都市「京都・和食文化推進会議」企画運営会議委員。京都府「京都文化フェア（東京オリンピックに関わる文化フェア）呼びかけ」に基づく推進委員会ワーキング会議推進委員。平成27年4月京都府立京都和食文化研究センター客員教授就任。

#### 【賞・表彰】

平成21年京都府「あけぼの賞」受賞。

平成26年10月京都市「和食一京の食文化」特別表彰。



きょうと食の安心・安全  
フォーラム



(一社) 京都府食品産業協会・  
山本隆英会長

1月30日(土)、京都J A 会館501会議室で、「安心・安全を知る、味わう〜明日へつなげる京の食文化」をテーマに開催。主催は、きょうと食の安心・安全フォーラム実行委員会(京都府、J A 京都中央会、「一社」京都府食品産業協会、コンシューマーズ京都、京都鶏卵・鶏肉安全推進協議会、京都府生協連)。

9回目の開催となり、府民55人が参加しました。

(一社) 京都府食品産業協会・山本隆英会長の開会あいさつにつづき、京都府農林水産部食の安心・安全推進課・津田義郎副課長が「京都府に

おける食の安心・安全の取組み」について報告しました。「きょうと信頼食品登録制度」登録事業者および京のブランド生産者による安心・安全の取組みの報告をうけ、試食と意見交換がおこなわれました。

京都府生協連・柴田弘美理事が閉会のあいさつをおこないました。

平成27年度  
食の安心・安全意見交換会

2月5日(金)、京都府庁日本館会議室で「京都府食品衛生監視指導計画」をテーマに、開催されました。

京都府健康福祉部生活衛生課・森田朗課長が開会のあいさつ。同・入江祐子副課長から「平成27年度京都府食品衛生監視指導計画経過報告」および「平成28年度京都府食品衛生監視指導計画(案)」、同・宮野前亜希副主査から「京都府におけるH A C C P の普及」について説明があり、意見交換しました。

京都発!  
食とみどりのサイエンスNOW

2月20日(土)、京都府立植物園・植物園会館で開催されました。主催は京都府農林水産技術センターで、今年で7回目の開催。京都府生協連などが後援しました。

京都府農林水産技術センター・北山重敏センター長が開会のあいさつ。同センター畜産センター研究・支援部・佐々木敬之研究員が「京都のお米が育てた卵とお肉を食卓へ」飼料用米の地産地消の取組について、同センター生物資源センター応用研究部・木村重光研究員は「戦う、守る、育てる あなたの知らないミクロのチカラ〜身近な微生物を生産現場で役立てる」をテーマに報告しました。



京都府農林水産技術センター・  
北山重敏センター長

農林水産省近畿農政局と  
近畿地区生協府県連協議会と  
の意見交換会開催

3月9日(水)、コープ御所南ビル4階会議室で開催されました。近畿農政局からは村上堅治局長はじめ11人の方が、生協からは近畿6府県の生協連・日本生協連関西地連の役員18人が参加しました。開会にあたって、村上堅治・近畿農政局長、近畿地区生協府県連協議会を代表して上掛利博・京都府生協連会長理事があいさつをのべました。近畿農政局から以下の報告がありました。「平成27年度補正予算および平成28年度予算について」前田安正・消費生活課長、「地理的表示制度について」吉田恵美子・地域食品課長、「米トレーサビリティ法施行状況に関する検討について」前畑博幸・流通監視課長、「近畿農政局における組織再編について」藤田栄二・地方参事官(京都支局長)。

その後、「日本の食料事情について」をテーマにして意見交換しました。近畿農政局から「知ってる? 日本の食料事情」日本の食料自給率・食料自給力と食料安全保障について「前田安正・消費生活課長から報告があり、生協から、「コープしがの産直・地産地消、県内農業の発展に向けた取り組みについて」藤田豊・滋賀県生協連事務局長、「協同組合間協同の取り組み」瀬戸内お魚井 学食でどうぞ!」三輪薫・兵庫県生協連事務局次長、「ならコープの地産地消の取組み」中野素子・市民生協ならコープ副理事長、「産直さくらこめたまごの取組みについて」廣池孝之・京都生協地産地消推進担当チーフが報告。



農林水産省近畿農政局・  
村上堅治局長

辻由子・奈良県生協連専務理事が閉会のあいさつをおこないました。

# 2016年 京都府生協連 新春交歓会開催



京都府生協連・  
畑忠男副会長理事



京都商工会議所中小企業経営  
支援センター・窪田裕幸所長



京都府府民生活部・  
西川定彦部長



京都府生協連・  
上掛利博会長理事



京都府生協連・  
中森一朗副会長理事

1月9日(土)、コープ・イン・京都で京都府生協連2016年新春交歓会を開催しました。柴田弘美理事が司会を担当、上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、中森一朗副会長理事が会員生協の役員を紹介しました。

来賓として、京都府府民生活部・西川定彦部長からあいさつをいただきました。

今年も地元選出の国会議員のみならずはじめ、府議会議員、市議会議員の方が多数ご出席くださり、高取淳専務理事からご紹介をさせていただきました。

京都商工会議所中小企業経営支援センター・窪田裕幸所長による乾杯で、会食・懇談に入りました。

行政や議員のみなさんはじめ、116人の方にご出席いただきました。京都府立大学邦楽部の学生のみなさんによる祝賀の演奏が、お正月らしさをいっそうひきたてました。

さいごに畑忠男副会長理事が閉会のあいさつをのべました。



会員生協役員の紹介

祝電・メッセージをいただいた方

(敬称略・順不同)

自由民主党 衆議院議員	安藤ひろし
自由民主党 参議院議員	二之湯 智
民主党 衆議院議員	泉 ケンタ
民主党・府民クラブ京都府議会議員団 団長	北岡千はる

ご出席いただいた  
京都府議会議員・京都市会議員

(敬称略・順不同)

日本共産党 京都府議会議員	上原ゆみ子
日本共産党 京都府議会議員	西脇 郁子
日本共産党 京都市会議員	山中 渡
日本共産党 京都市会議員	くらた共子
公明党 京都市会議員	西山 信昌

ご出席いただいた国会議員のみなさん

(順不同)



民主党衆議院議員・  
山井和則さん



民主党衆議院議員・  
泉ケンタさん



民主党参議院議員・  
福山哲郎さん



日本共産党衆議院議員・  
こくた恵二さん



日本共産党参議院議員・  
倉林明子さん



日本共産党参議院議員・  
井上さとしさん



京都府立大学邦楽部のみなさんによる祝賀の演奏



なごやかに歓談



今年もよろしく

# 立命館生活協同組合

〜佐藤敬二理事長に聞く〜 (聞き手: 京都府生活協同組合連合会専務理事・高取 淳)

立命館生活協同組合は創立50周年をふまえて、新しい半世紀に向け「組合員の学園生活の文化的・経済的な状況を改善し、また向上し続けること」を使命とし、日々キャンパスで活躍されています。今回は立命館生協・佐藤敬二理事長を訪ね、お話を伺いました。

**高取** 佐藤理事長は生協にかかわられてどれくらいでしょうか？

**佐藤** 生協の役員になったのは理事長就任が初めてで、2年目になります。入学時から大学生協の組合員ですので、その意味では生協にかかわって36年になります。

理事長に就任したのは、前任者から就任の依頼をいただいたことがきっかけでした。依頼は基本的にはお引き受けするようになっています。依頼していただいた方が「やれる」と判断されたのだと思いますので、それを尊重しようと考えているからです。

私に依頼をされたのは、理事長就任前まで大学の学生部長を含めて通算で7年間、学生部の役員をやっていたためだと思います。学生部は生活

面を含めて学生を援助、支援する部局ですし、生協と懇談もしておりましたので、理事長に就任しても大丈夫だと考えられたのでしよう。

## 総代会を大切にしたい運営

**高取** 立命館生協の特徴をお聞かせください。

**佐藤** 立命館生協は8つのキャンパスに35のショップで事業を展開しており、供給高は全国でも3番目の規模となっています。2015年度新入生の生協加入率は98%を超え、全体でも95%と、大半の学生、院生、教職員が加入しています。

いまの学生はあまりキャンパスから外に出ません。1日中キャンパスの中にいて、講義に出席し、課外の活動をおこないます。ですから食事の

面はもちろん、購買や旅行の手配などかなり生協がカバーしていると思います。そういう意味では、生協の役割はますます大きくなっていると思っています。朝食を食べる朝から講義を受講しようというので100円朝食を始めたのもその一環です。

立命館大学は、大学全体の方向性を議論するため、全学協議会という、理事会と学生、院生、教職員が集まって議論する場を設けています。そこには立命館生協もオブザーバーで参加しています。立命館生協も学生の生活支援をおこなうひとつのパートとして位置づけられていると考えています。

学生たちは、生協学生委員会(GIと称しています)を組織しています。立命館生協のGIは現在約200人おり、3キャンパスでかなり積極的に活動しています。現在であれば、新入生歓迎の活動として、自宅生説明会・下宿生説明会、ウェルカムフェスティバ

ルなど多様な形態で新入生の不安にこたえようとしています。日常的にも、学生が困っていることに対応した企画や、健康や食育にかかわる活動をおこなっています。また、総代会を大切にしているのも特徴です。総代会前には、総代さんに集まってもらっての学習会、総代会後にはフォロー企画をおこなっていますし、今後、総代さんがもっと主体となった活動も検討しています。



大阪いばらきキャンパス

## 大阪いばらきキャンパスの3つのコンセプト

**高取** 昨年、新しく大阪いばらきキャンパスを開設されたということですが、キャン

パスのコンセプトが、まちや地域との調和とされているとお聞きしています。

**佐藤** 大阪いばらきキャンパスは、アジアのゲートウェイ、地域・社会連携、都市共創(都市を共に創る)の3つのコンセプトで作られています。1つ目のアジアのゲートウェイでは、世界、とりわけアジアとの窓口として、研究者を受け入れ送り出し、留学生を受け入れ送り出し、学生のキーステーションとなるようとしています。2つ目の地域・社会連携では、実際にキャンパスを見ていただければいいのですが、塀が一切ありません。色々な方が地域開放型の施設やショップを利用されたり、隣が公園ということもあり子どもたちも遊びにきたりしています。キャンパスの中にはホールもありコンサートもできますし、茨木市商工会議所もキャンパスの敷地内にあり、地域・社会連携の役割を果たしています。3つ目の都市共創では、都市を共に創ろうという研究センターができていて、連携だけでなく、ここから発信して共に創っています。キャンパスの中も、



立命館生協・佐藤敬二理事長

コモンズ（共有地）という誰でも使える共有の場所があらゆる場所にあります。学舎中央に100mの廊下があり、色々なところにデイスカッションできる場所やフリーに使えるスペースがいくつもあります。そこから何かを創っていかうということコンセプトにしています。

**高取** その中で生協はどんな取組みをされているのでしょうか。

**佐藤** 生協の取組みはまだまだこれからだと思っています。アジアからの留学生の関係でいうと、対応する職員の言葉の問題や、ハラール（※）の問題もあります。（※イスラム圏では宗教上、口にしてはいけないものをハラムといい、

逆に口にすることが許されたものをハラールといいます。）APU（立命館アジア太平洋大学）にある生協のカフェテリアでは、ムスリムフレンドリーの認証を受けて食事提供をしております、ムスリムフレンドリー認証を受けたカフェテリアとしては最大規模のものとなっております。立命館大学のキャンパスでも取組んでいく必要があると考えています。

地域・社会連携では、大学のゼミと連動していくつか取組みを進めています。京都のキャンパスでは例えば、京北町の方々と連携して、商品を販売したり、食堂メニューに京北のものを使用したりしています。茨木のキャンパスでも丹後マルシェを開催してい

ます。茨木市の産品を使ったメニューを提供したり販売したりもしていますが、都市共創、コモンズの有効活用などはこれからの課題ですね。

**高取** 近隣の地域と学生が共にする活動はありますか。

**佐藤** 地域と学生が一緒にできるような活動も進めたいと思っていますが、まだまだこれからですね。ただ地域の方たちには若い方も多く、何かやりたいという思いは持っておられて、2015年度に大阪いばらきキャンパスで開催した学生団体によるコンサートでもかなりたくさんの方が来られています。

### 組合員の声にこたえて

**高取** 大阪いばらきキャンパスのショップの特徴はなんでしょうか。

**佐藤** カフェテリアは、営業時間外にはコモンズとして利用できるように設計されていることもあり、いろいろなイベントがおこなわれたり、学生や地域の人々のたまり場になっています。

キャンパスにはコンビニや一般のレストランもあり、当初から生協のショップでは飲料や食料品などコンビニで取

り扱うものは扱わないということでもスタートしました。そのため生協のショップは文具や書籍を扱うだけになっていますが、昼食時のコンビニの回転が悪く、困った学生や教職員から生協でも飲料や食料品を扱ってほしいという声が強くなっていました。そこで、

キャンパス開設1年目ですが改装を進め、4月から新たに生協のミールショップを開設して組合員の要望に対応できるようにします。カフェテリアも価格の安さと栄養面から大混雑しており、生協が頼りにされていると感じています。

### これからの大学生協

**高取** 佐藤理事長が生協に関心をお持ちのことは？

**佐藤** 生協というのは、組合員が自分たちで何か作っていくところがおもしろいところだと思えますし、協同が形にできるところが魅力だと思います。学生がフェアトレードの商品を持ち込んで食堂メニューにのせたり、ショップで売ることなどもあります。これらは一例ですが色々なことが生協を通じてできるので

はないかと思っています。  
**高取** これからの役割や抱

負などお願いいたします。

**佐藤** やはり大学の生協でするので、様々な学びの支援をしっかりとやりたいと思っています。今年度から開始したエクステンション事業（資格講座）のような事業だけでなく、読書会やビブリオバトルなど生協としておこなえる学びの支援は色々と考えられます。また生協の職員も大学で働いているのですから教育者であるべきだと思っています。今

も、店長さんなどはよく学生と話をしてアドバイスもされており、教育的なことも少しはできているかなと思っていますが、そのような姿勢を涵養（かんよう）していくことが重要だと思っています。

**高取** 本日はお忙しい中、ありがとうございます。

## 立命館生活協同組合

代表者/理事長：佐藤 敬二  
専務理事：酒井 克彦  
所在地/京都市北区等持院北町56-1  
TEL.075-465-8280  
事業高/62億3,587万円  
組合員数/4万7,501人  
設立年月日/1962年6月14日

<http://www.ritsco-op.jp/>

京都府生協連 環境・エネルギー部会、ならコープを訪問

1月22日(金)、エネルギーに関する先進的な事例を学ぶことを目的に、ならコープ本部を訪問しました。

はじめに、ならコープ・有山富士美常任理事からあいさつがありました。同・CSR組織広報部・辻本善郎環境・エネルギー担当から、2012年に策定した、ならコープの2020年に向けたあらたな環境政策にもとづき、奈良という地域の特性を生かした新しいエネルギー政策に取り組んでいるとの報告がありました。ならコープでは5カ所に太陽光発電施設が設置されており、そのなかの物流センターの太陽光発電施設を見学しました。今後、さらに5カ所で実施計画が予定されています。つづいて、ならコープグループ



ならコープ・有山富士美常任理事

プの(株)コープエナジーなら(2015年6月設立)・高塚克則取締役からは、大正3年〜昭和38年までの約50年間稼働していた「つくばね発電所」を復活させるために「東吉野村小水力利用推進協議会」を設立。2014年には協議会の有志によって「東吉野村水力発電株式会社」を設立したことなどの報告がありました。参加は部会メンバーのほか、事務局など6人。



ならコープ物流センター屋上の太陽光パネル

COP21(国連気候変動枠組条約・第21回締約国会議)・パリ会議報告会 開催

3月1日(火)、コープ御所南ビル4階会議室で、開催されました。

2015年12月にパリで開かれていたCOP21で新たな温暖化対策の世界的枠組みを決める「パリ協定」が採択されました。



気候ネットワーク・伊与田昌慶研究員

1997年の京都議定書以来の新しい枠組みとなり、世界196カ国が温室効果ガスの削減に参加し、石油・石炭などの化石燃料に依存しない社会をめざすことになりました。報告会では、パリ会議に参加された、認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)「気候ネットワーク」伊与田昌慶研究員から、パリ協定採択の意味やパリ会議での日本の交渉姿勢、これからの日本の課題について、報告いただきました。会員生協役員など、29人が参加しました。

京都府生協連 地域支援事業推進チームがあすなら苑を訪問

2月27日(土)、ならコープを母体とする、社会福祉法人協同福祉会あすなら苑を訪問しました。協同福祉会・村城正理事長から「これからの福祉事業と生協の役割」生協は、地域でどのような役割を果たそうとしているのか」をテーマにお話を聞きしました。

あすなら苑施設では、介護度が高い入居者も、食事では食卓椅子に座り、オムツは使わず、車いすも極力使わないなど、できるだけ普通の生活をする事で寝たきりを回避するケアの取り組みを視察しました。生協として強い意志を持って「あすなら安心システム(24時間サービスと複合施設を核にした介護系の地域包括ケアシステム)」に取り組みられている様子が分かりました。チームメンバー、事務局など9人が参加しました。



協同福祉会・村城正理事長



食卓椅子を使って食事

近畿ブロック地方消費者グループフォーラムin和歌山

2月8日(月)、和歌山県ブラザホープ・大ホールを会場に、近畿地区の消費者団体・行政で構成する実行委員会と消費者庁の主催で開催され、約200人が参加しました。

今年のテーマは「学んで、気づいて、つながって」すべて地域で安心してくららしていくために」。

消費者庁・板東久美子長官が開会あいさつ。12の消費者団体からパネル展示(壁新聞)された活動のリレー紹介がありました。つづいて、和歌山県・市、消費生活サポーターなどから取り組み報告がありました。

後半は16のグループに分かれてグループ討議をおこない、日頃の活動を交流しました。

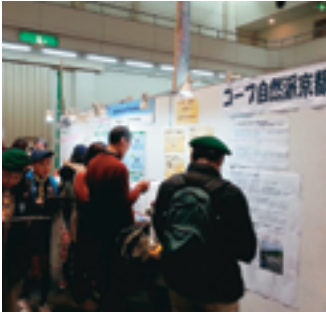
閉会にあたり、板東長官によるフォーラム全体の講評がおこなわれました。京都府生協連は実行委員会に参加しています。



消費者庁・板東久美子長官

京都環境フェスティバル  
2015

2015年12月12日(土) 13日(日)、京都府総合見本市会館(京都パルスプラザ)で、「一人ひとりが主役! わが家・わが社のeco活実践」をテーマに開催されました。主催は京都府、京と地球(アース)の共生府民会議、京都府地球温暖化防止活動推進センター。環境について楽しみながら、学び、考えることができる参加・体験型イベントとして、1992年度から実施されています。環境NPO等の団体による「環境展示・体験型ブース」、「地産地消『京のエコ市』・エコグルメブース」など、楽しいイベントもあつなわれ、京都府生協連も会員生協と共に出展しました。



クイズに挑戦!

展示内容は休耕田を有効活用し、飼料米で育てた鶏の卵「さくらこめたまご」の取組み(京都生協)、安全と環境を守る取組み(コープ自然派京都)、ネ

ガワット(節電所)の紹介(京都府生協連・環境・エネルギー部会)など。展示物からの簡単なクイズを出題し、二日間あわせて1000人以上がクイズに参加され、にぎわいました。みんなで選ぶベスト5(出展団体表彰式がおこなわれ、京都府生協連の出展ブースが、入場者最多の訪問を獲得したことから、最優秀賞を受賞しました)。

京都府災害ボランティアセンター  
設立10周年記念事業を開催

京都府災害ボランティアセンターは、2005年5月に行政、民間団体、京都府社会福祉協議会との協働組織として設立されました。センター設立10周年を記念して、1月23日(土)、京都文化博物館別館ホールで「私と災害ボランティア」を開催しました。

10年の活動を映像で振り返ったあと、トークセッション「私と災害ボランティア」非日常から日常へ私が伝えたい災害ボランティアの先で出会ったもの」では、龍谷大学政策学部長・教授・京都地域創造基金理事長・きょうとNPOセンター・深尾昌峰常務理事をコーディネーターに、(一社)防災ガール・田中美咲代表理事、福知山ママボランティアALINK・笹部美佳



トークセッション  
「私と災害ボランティア」

代表、立命館大学産業社会学部・齊藤怜氏、京都災ボラバンク緑宮城光夫氏の4人のかたから、実際に災害ボランティアに参加した経験を交えてお話があり、「災害時」だけでは終わらない、災害ボランティアのその先を考えあいました。

司会進行を、京都府生協連・酒向直之事務局長がとめました。

第3回近畿圏 府県生協連・  
ろうきん合同会議 開催

2015年12月25日(金)、近畿ろうきん肥後橋ビルで開催されました。合同会議には、近畿労働金庫から22人、生協から近畿6府県の生協連役員11人が参加しました。

近畿労働金庫・渡壁長則理事長が開会あいさつ。同・安岡博司常務理事より、近畿ろうきん事業概況の紹介があり、「生協・ろうきんの相互連携」の全体状況についての報告が、全国労金

協会・営業企画部・青山浩之次長、近畿労働金庫・営業推進部・中須雅治次長、同・地域共生推進室・浦田和久室長からありました。各生協府県連からは、各地の生協概況や、近畿ろうきんとの連携した活動について報告しました。

続いて、市民生活協同組合ならコープ・森宏之理事長より、「協同組合間協同・連携に向けた課題と期待」についての講演があり、意見交換しました。



近畿労働金庫・渡壁長則理事長

相互連絡防災通信訓練を実施

京都府生協連では、阪神・淡路大震災、東日本大震災をはじめ、京都府においても毎年大きな水害などが発生していることから、1月15日(金)に、これまでの災害時の教訓を生かして、会員生協との相互連絡防災通信訓練を実施しました。

当日は、京都市内を震源とする震度6強の地震が発生。各地で家屋の倒壊、一部道路の寸断

クライメイトアクション・アースパレード

あらたな地球温暖化対策の枠組みを決めるCOP21(国連気候変動枠組条約・第21回締約国会議)・パリ会議の開会前日の2015年11月29日(日)、「アースパレード」が京都市内でおこなわれ、会員生協とともに参加しました。

参加者は円山音楽堂での集会の後、四条河原町から京都市役所に向けパレードして、沿道の買い物客や観光客に温暖化防止の大切さを訴えました。



気候をまもる、パリへの行進  
アースパレード2015

# 京都府生協連 第18回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

## テーマ これからの職員組織を考える



京都生協・畑忠男理事長

職員の高齢化や後継者問題、職員教育などは、多くの生協で課題となっています。今回のKSKでは、京都生協、大学生協京都事業連合、生活クラブ京都エル・コープの3つの会員生協から現状や取り組みについての話題提供がありました。



京都府生協連・本多浩常任理事

1月19日（火）、コープ御所南ビル会議室で開催しました。役員と組合員の23人が参加しました。京都府生協連・上掛利博会長理事から開会のあいさつがあり、本多浩常任理事（府庁生協専務理事）がコーディネーターをつとめました。



生活クラブ京都エル・コープ・河崎豊彦専務理事

生活クラブ京都エル・コープ・河崎豊彦専務理事からは、多くの職員が兼務で業務をかかえることから起こる問題や課題があり、現在人事評価制度づくりを進めているとの取り組み紹介がありました。



大学生協京都事業連合・疋田利政役員室キャリアリーダー

大学生協京都事業連合・疋田利政役員室キャリアリーダーからは、人材育成の課題や将来を見越した人事制度づくりに関する取り組みなどが紹介されました。

京都生協・畑忠男理事長からは、職員の高齢化が進む現状や雇用確保の課題、人材育成の取り組み紹介がありました。



分散会では活発な意見が多く出ました

後半の分散会では3つのグループに分かれて、前半の話題提供の感想や、自分たちの組織で普段感じていることなどを交流しました。参加者からは、「改めて課題の大きさ、緊急性を感じた」「会員生協同士がつながることが大切。力を合わせて取組むことができたらい」「分散会は、気軽に考え合える場として良かった」「本テーマは継続してほしい」などの感想が出されました。

### おもな行事のお知らせ

第19回京都の生協活動を豊かに発展させる協議会（KSK）

日時：4月12日（火）

午後1時30分～

午後4時30分（予定）

会場：コープ御所南ビル4階

会議室

テーマ：TPP～これからの共済・保険・医療を考える（仮）

京都府生協連第63回通常総会

日時：6月14日（火）

午後1時30分～

午後5時（予定）

会場：コープ・イン・京都2階

202号室（中京区柳馬場通蛸薬師上る井筒屋町

411）

ピースバレード

（2016年度ピースアクション京都）

日時：6月21日（火）

会場：祇園石段下から京都

市役所まで

2016年国際協同組合デー

第27回京都集会

日時：7月6日（水）

午後1時00分～

午後3時20分（予定）

会場：キャンパスプラザ京都

テーマ：未定

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会 〒604-0857 京都市中京区烏丸通一条上る時絵屋町2508番地 コープ御所南ビル4階  
TEL 075 (251) 1501  
URL http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail: kyotofu-seikyoren@ma2.seikyoren.jp